

事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和5年7月21日

事業所名:若松ひまわり学園

チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	① 利用定員が指導訓練室等のスペースとの関係で適切である	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナの感染症対策も兼ねて、プレイルーム使用時には1クラスを2グループに分けて使用している。</li> <li>・各居室の他、子どもの活動に合わせ、プレイルームや廊下等も活用し、密にならないよう工夫している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定員に対する部屋の広さについては基準内である。</li> <li>・プレイルームの活動内容をコーナー遊びなどを取り入れて分散するように配慮する。</li> </ul>
	② 職員の配置数は適切である	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ対策(消毒、食事等)の要員をプラスして対応している。</li> <li>・急な職員の欠席にも、すみやかに代替職員を配置し、療育に支障が出ないようにしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染予防のため、食事支援や消毒・清掃のため3~5時間程度のパート職員を雇用している。</li> </ul>
	③ 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・建物の構造的にバリアフリーが難しい場所もあるが、その都度工夫している。</li> <li>・トイレから手洗い場が遠いなど、動線のとりかたが難しいため、他の手段(カードや誘導)で伝えている。</li> <li>・マットやパーテーション、テーブル等を使用し、生活や遊びの場などの空間がわかりやすいように構造化するなど配慮をしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トイレはバリアフリー化。</li> <li>・クラスや園庭への出入り口の段差を解消するなど、安全対策を行う。</li> <li>・今後もお子様の状態に合わせて生活空間の構造化を図る。</li> </ul>
	④ 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の清掃や消毒を行っており、活動中に汚れた時でもすぐに清掃するように心掛けている。</li> <li>・個別に対応したり、ひとりで落ち着けるようなスペースがあると尚良い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も、感染症対策等に気を配り、清潔安全に過ごせる空間を設定する。</li> </ul>
	⑤ 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員勉強会の実施。</li> <li>・日々、職員同士で意見交換を行っている。</li> <li>・職員会議や指導会議で議題を挙げ問題解決や支援の向上を図っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度末に業務の反省を職員全員で行い、振り返ることで次年度の改善に心掛けている。</li> <li>・職員会議や指導会議で今後も継続的に業務の改善を話し合う。</li> </ul>
	⑥ 保護者等向け評価表により、保護者に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎年、保護者用アンケートを実施し、改善点をホームページや園内に掲示して公開している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全職員で保護者の意向を確認し、話し合いをしながら業務改善を行なっていく。</li> </ul>

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
業務改善	⑦	事業所向けの自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所としての自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の開放やホームページ等で公開している	○		・アンケート結果や改善点については、ホームページで公開し、園内玄関に掲示している。	・令和4年度の結果については、ホームページ上で公開予定である。 ・公開については、保護者に書面で伝え周知をはかる。 ・今後も職員全体で内容を周知し、改善に取り組んでいく。
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○		・市の指定管理施設としてモニタリングを実施している。	・モニタリングにより、指摘された点について全職員で検討し、改善に努める。
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		・園内研修や外部研修など様々な研修に参加している。 ・各職員の希望も考慮して内容や回数を調整している。 ・外部講師をまねき、定期的にコンサルティングを実施している。 ・引野・若松・到津ひまわり学園の新規採用職員が集って、業務に必要な基礎研修と情報交換を行っている。	・業務や職員の質の向上につながる研修の案内を全員に回覧し、希望者は受講できるように配慮する。 ・全員が1つは知識を向上するための研修に参加できるようにする。
	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		・面接での聞き取りや、ポータープログラムをチェックを保護者にも実施してもらい、お子様の現状やニーズを聞き取って、課題を細分化した支援計画を作成している。	・家庭訪問や懇談で、丁寧にアセスメントを行い保護者のニーズを確認し、相談支援事業所と連携のもと、個々に応じた児童発達支援計画を作成している。
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		・遠城寺式乳幼児分析的発達検査やポータープログラム、感覚プロフィールなどを活用してアセスメントを行っている。また、お子様の状態に応じて総合療育センターのメディカルスタッフに依頼し、心理検査や言語の検査を実施している。	・遠城寺式乳幼児分析的発達検査により、項目によって検査項目が上限に達するお子様に向けた新たなアセスメントツールを利用する。(KIDS乳幼児発達スケール)

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ガイドラインをもとに相談支援専門員、児童発達支援管理責任者、クラス担任が連携しながら、具体的な支援内容について検討している。</li> <li>・ガイドラインは全職員が常に閲覧できる場所に置いている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後もガイドラインに沿って個々に合った支援計画を作成し、定期的に見直しをしていく。</li> </ul>
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援計画を基に年間の目標・月の目標をたて、それに沿って支援を行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標に沿った支援方法や課題を記入し、クラス職員が毎日チェックを行っている。</li> </ul>
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの状態を見ながら、支援計画に沿って適宜、アプローチ方法を検討しながら立案している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後もお子様の様子を全職員で確認しながら活動プログラムをクラス職員やグループ職員で立案し支援していく。また、その内容を保護者に知らせていく。</li> </ul>
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・同じ活動でも、スモールステップでお子様に合わせてレベルアップしていけるよう工夫している。</li> <li>・インターネットを活用し、子どもが好きなキャラクターや遊びの情報を得る等して、様々な活動を取り入れている。</li> <li>・お子様の興味や季節に合った内容を取り入れるようにしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後もお子様の興味や得意なことを取り入れた内容を考えて、モチベーションを高めながら取り組んでいく。</li> </ul>
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせることで児童発達支援計画を作成している	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・集団活動中でも場合によっては必要に応じて個別の配慮をし、クラス担任やグループ担当と情報を共有して作成している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援計画の目標については、個別活動と集団活動を組み合わせで作成し、職員間で話し合いながら見直し、今後も実施していく。</li> </ul>
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝礼後に、職員間で情報が共有できるように細かい内容を打ち合わせている。</li> <li>・特に職員配置が変わる時や普段と違う活動の前には入念に確認している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝礼に参加できないバス添乗職員に関しては、各クラスの職員が確実に伝達するように徹底する。</li> <li>・事前に参加できないことがわかっている場合は、前日に打ち合わせをする。</li> </ul>
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日、就業前に時間を決め、クラス職員間でその日の振り返り、情報交換、支援の見直し等を行っている。</li> <li>・記録を付け、不在の職員も情報が共有できるようにしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お子様の降園後は、活動を記録し、振り返りをする時間を設ける。また、不在の職員も確認できるよう徹底する。</li> </ul>

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
⑱	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		・支援計画の進捗の他に行動面や身辺面の記録を支援に役立てている。	・毎日の記録の時間を効率化する方法を検討する。
	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		・モニタリングの時期を決め、保護者と支援計画の見直しを実施している。	・児童発達支援管理責任者が個人懇談時などに合わせてモニタリングを行い、見直しを確認していく。
㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		・相談支援専門員、児童発達支援管理責任者、各クラス担当者と共に会議を実施している。	・情報が混乱しないように、主に相談支援専門員と児童発達支援管理責任者がお子様の情報交換を行い、その後、クラス職員が情報を聞き取る。
	母子保健や子ども子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		・必要に応じて、各関係機関(区役所、子ども総合センター等)と連携をとっている。 ・区役所で毎月実施されている親子あそびや定期的開催される子育て支援部会に参加している。	・虐待の疑いのあるお子様や、以前保健師が関わっていたお子様の近況報告を定期的に行うことで、連携した支援を行っている。
	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○		・状況に応じて、作業療法士に依頼し助言を受け、学校の引継ぎ等を行っている。	・今後も必要な関係機関と連携し、支援を行い、次の機関に引継ぎしていく。
	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○		・必要なケースについては、通院時に園長や担当職員が同行し、情報を交換している。	・緊急時の対応をマニュアル化し、職員間で周知している。
	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		・幼稚園・保育園へ移行2ヶ月前より併行通園を実施している。 ・保護者の希望に応じて引継ぎ書を作成し説明している。 ・必要に応じて短時間通園(グループ療育外来)を紹介している。	・今後も対象児がいる場合は、文書だけでなく、電話や映像などで情報の共有を図ったり、移行後の支援の方法などを詳しく説明する。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	②6	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		・保護者の同意を得て、入学先の学校へ書面・口頭で引継ぎを行っている。	・今後も継続していく。
	②7	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		・総合療育センター地域支援室の訓練士等と連携し、支援の助言や保護者・職員向けの研修、講師の依頼をしている。	・今後も継続して連携していく。 ・保護者の希望により、職員だけでなく保護者勉強会の講師も依頼していく。
	②8	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	○		・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため令和4年度は行っていない。 ・例年、地域の保育所と交流保育を実施している。	・新型コロナウイルス感染の5類移行を受け、交流保育の準備を進めていく。
	②9	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○		・若松区子育て支援部会に参加。 ・若松あんしんネットワークの講演会にも参加している。 ・区の親子遊びの講師として毎月派遣している。	・今後も要請に応じていく。
	③0	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		・個別、クラス懇談会を実施している。 ・電話、連絡帳を通して保護者と情報を共有している。 ・園でできることをホームプログラムとして取り組んでもらうなど、家庭での対応を提案している。	・今後も保護者の意向や家庭での状況など確認しながら、情報交換し、発達の課題について共通理解できるよう努めていく。
	③1	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○		・家庭での対応方法を理解してもらうため、希望者にペアレント・トレーニングを5回シリーズで2グループ行った。	・今後も保護者のニーズにあった勉強会やペアレント・トレーニングを実施していく。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任	③②	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		・重要事項説明書や契約書を、入園児のオリエンテーションで書面を見ながら説明し、了承を得ている。 ・運営規定等は保護者がいつでも閲覧できるように園内に掲示している。	・今後も丁寧な説明を心掛ける。
	③③	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		・児童発達支援管理責任者が個別に、内容の説明を行い、同意を得ている。	・今後も継続して説明し、同意を得ていく。
	③④	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		・個人懇談を年に3回全員実施している。 ・お子様の状態を連絡帳などで情報交換し、家庭での困りごとには、電話で詳しく聞き取り、必要に応じて助言や具体的な対応方法を作成して対応をしている。	・今後も継続していく。
	③⑤	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		・コロナウイルス感染防止のため、若松市民センターの多目的ホールを利用し、勉強会や保護者会を行った。 ・保護者会役員とは常に連絡を取り必要に応じて交流場所を提供している。	・保護者会役員の方の希望に沿って、場所の提供や勉強会の計画を立て、支援していく。 ・役員に負担がかからないように配慮する。
	③⑥	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		・個人懇談会の他、連絡帳などで相談があった際は、早急に園長に報告し、電話で相談に応じている。	・担当のみで対応が難しい場合は、園長・児童発達支援管理責任者に相談したり、ケース会議の議題に挙げて園全体で対応している。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
③7	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・月のお知らせ・グループ活動案・写真だより、ホームページのブログ等で定期的に発信している。</li> <li>・ブログの更新の回数を増やしたり、掲載の写真の量を増やして情報を伝えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的にお子様の様子を写真に撮り、保護者にお配りした。</li> <li>・今後もできる限りリアルタイムで活動の様子が伝えられるように発信していく。</li> </ul>
③8	個人情報の取扱いに十分注意している	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ケースファイル等のキャビネットは毎日施錠し保管することを徹底している。</li> <li>・毎日、終業時ファイルの数を確認している。</li> <li>・資料等の作成は園内で行い、持ち出しは禁止している。</li> <li>・クラス内の子ども用ロッカー等は名前ではなくマークにしている。</li> <li>・名前が記載されているかごなどは、降園後片付けるように配慮している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員に周知徹底する。また、コンプライアンス研修として個人情報保護に関する研修を今後も毎年行なう。</li> </ul>
③9	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・お子様に合わせ、絵カードやジェスチャー等使用して情報や意思を伝えられるようにしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者がわかりやすい文章や伝えやすい環境作りを考えていく。</li> </ul>
④0	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的に近隣町内に回覧板として広報誌を配付したり(100部程度)、道路に面したフェンスに掲示板を設置し、行事のお知らせなどを掲示して情報を公開している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園フェンスの車道側に案内板を設置し、行事の案内や季節の制作物を飾って近隣住民の方が親しみを持てるようにしている。</li> </ul>
④1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・不審者訓練や様々な災害を想定した訓練を毎月行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マニュアルを策定し、訓練を実施している。</li> <li>・保護者への周知は月のお知らせや、連絡帳、ホームページ等で今後も知らせていく。</li> </ul>

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・月に1回の火災避難訓練と、水害や竜巻など様々な災害を想定した訓練を行っている。</li> <li>・災害に応じて一時避難、二次避難まで行っている。</li> <li>・年1回消防士の立会いのもと、総合避難訓練を行い、避難方法の見直しを行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も連絡帳やホームページで実施したことやお子様の様子を知らせる。</li> </ul>
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度始め、保護者へお子様の状況や対応について確認している(保健調査表)。</li> <li>・個別に必要な薬の管理や発作時の対応方法を書面にまとめ、園内やバス乗車時にも対応できるよう職員間で周知し、定期的に確認している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も個人懇談時に定期的にお子様の状況や薬の管理・対応の確認をしていく。</li> </ul>
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・必ず医師の診断書を提出してもらい、除去食を提供している。</li> <li>・毎月、除去食のお子様には保護者に献立の確認を行っていただき、チェックしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も継続して対応する。</li> </ul>
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎朝、朝礼で確認し、今後の対応策を共有し記録している。</li> <li>・報告書を作成し、全員に回覧し周知している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度末に生じた時間や理由をまとめて、傾向等分析し、職員間で再確認している。</li> </ul>
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラスで毎月チェックリストに基づいて振り返りを行っている。</li> <li>・虐待防止委員会を設置し、会議を実施している。</li> <li>・年2回人権研修を行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・虐待についての研修に参加し、全職員が周知するよう伝達研修を実施する。</li> <li>・虐待防止委員会の機能の充実を図る。</li> </ul>
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・バスのシートベルトの固定等、身体拘束等の特別な対応をする場合は、保護者に事前に説明し了承を得たうえで承諾書にサインをいただいている。定期的に経過を確認し常態化しないよう気をつけている。</li> <li>・身体拘束等適正化検討委員会により、年2回会議を行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も保護者の同意を得たうえで定期的に見直しを行なう。</li> <li>・身体拘束等適正化検討委員会の機能の充実を図る。</li> </ul>

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。